



学園の将来

常任理事 大西利治
学園事務局長

学園の将来と云うテーマで何か書くようにと、編集者より依頼を受けた。標題に相応しい原稿となるかどうかとに角、私の考えてるなりたい姿である。

姿を書いてみたい。

御承知の如く、本学は昭和三年交通教育を目指して創設された鉄道学校を母体

とし、今日の大学の基盤はその創立者を中心とする先人達の、風雪に耐えた汗と努力の結晶により成ったものであります。

歩みは、一歩一歩足許を固めながら、堅実に築き上げられたもので、我々本学に勤務するものとしては、この先人達の偉業を引き継ぐ時流に対応しながら、近代的な努力を發揮しなければならない。然しながら、世間の流れを誤りなく見通しながら、長年月かけて着々と実行しなければならない。

当面考へている事は、学生収容数一人万人を志向し、五千件計画でこれを実現さす事にある。勿論経済規模拡張のみではなく、獨特の風を創り上げる事も併せます。早行で行かなければならぬことは云々迄もない。これ

が実現には、校用地を更に二万坪程度は確保しなけれ

ばならず、又学生諸君の収容施設や、それに伴う諸設

備を充足して行かなければ

ならない事になるが、一方では取支のバランスを図りながら、財政的にしつかりと裏打ちされた設備投資でなければ、長期安定成長は遂げられない。このように一つの理想的な、あるいはそれに近い教育機関の造成は、高々つくるものであるが、経営的観点より考へると、経済的合理性は無視出来ない事であり、かと云つて、には並々ならぬ、人的物

れば努めるほど、その大学は火の車となる」と云われている。その言葉に象徴されるように、良い教育は、運営のための活動としての教育・研究と、経営の問題は、本質的

に相容れる性質を有するものではなく、本来表裏一

と別して研究されなければならない問題点がある。

大學經營が、他の事業經營

とは、全く別れたものであ

ればならないのである。

大學本来の活動

としての教育・研

究も大学としての

長期的展望を基礎

とした計画に基づ

き、遂行される必

要がありそれには

その効率的達成の

ための組織構成を

考へ実際の活動を

評価し、管理統制

して行かなければ

ならない。

私は内心大変

な国にやつて来た

たあとと思いま

したが、引き返

事もできず、彼の地に滞

ることとなつたのです。

女性には、街に買物

に出かけ、ベールを被つた

事もできず、彼の地に滞

ることとなつたのです。</p

